

令和6年度 長野県小諸商業高等学校 学校評価 自己評価（最終）

令和7年2月

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

| 学校教育目標 | | 中・長期的目標 | |
|---|------|--|---|
| 教育活動を通して、個人の尊厳と協調の精神を体得させ、民主的な国家社会の形成者たる資質を培うとともに、専門教育により広く国民経済における商業諸活動の担い手としての有為な人材を育成する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健全で、人間性豊かな生徒を育てる。 ・学校及び社会生活の規律を重んじる心を育てる。 ・学習習慣を確立させ、自ら学び自ら考える態度を育てる。 ・進路目標を明確にさせ、その実現に向けて粘り強く努力する姿勢を育てる。 | |
| 今年度の重点目標 | 分掌 | 評価 | 今後の課題・改善策等 |
| 1 基本的な生活習慣の確立および、挨拶・身だしなみの徹底を図る。 | 1学年 | B | 生活習慣は概ね良好だと考えるが、一部で遅刻、自分本位の欠課等が見られた。挨拶は自然とできている。ピアスや化粧、スカートを折る等、身だしなみの乱れ等には、これからも粘り強く声をかけていく。 |
| | 2学年 | B | おおむね良好であるが、一部、身だしなみの乱れや持ち物の管理の甘さ、遅刻等がみられた。最終学年としての自覚が持てるよう、引き続き指導していきたい。 |
| | 3学年 | B | 概ね良好であり、進路活動を意識して取り組むことができた。身だしなみや遅刻等に関して、一部で自分本位な行動が見られたので粘り強い指導をおこなった。 |
| | 生徒指導 | B | 生活習慣と挨拶に関しては概ね良好である。身だしなみについては粘り強い指導の継続と冬季期間の防寒対策の検討が必要。 |
| 2 自ら問いを立て、その解決に向けて主体的・協働的に取り組む力を育成する。 | 1学年 | B | 講義式の授業もあり、自ら問を立てる展開の授業はすべての授業ではないが、その中では対話方法や協働様式、表現の多様性等を学ぶことができた。クラス横断授業や教科横断授業も一部で展開し、視点を変え視野を広げる一助となった。 |
| | 2学年 | B | 日々の授業や修学旅行等の行事を通して、成長が見られた。来年度の進路実現に向け、主体的に活動できるよう、より一層指導に力を入れていきたい。 |
| | 3学年 | B | 多くの生徒が自分の進路の実現に向け何をすべきか考えながら、主体的に活動することができた。また、課題研究などの授業により協働的な学びの機会があった。1年次からの学習経験を積み重ね、主体性を伸ばした生徒も見られた。 |
| | 進路指導 | B | 様々な進路行事やキャリア教育イベントを開催し、生徒が視野を広げる場を提供した。今後も生徒が積極的な取り組みができる環境づくりを引き続き心がけていくとともに、ビジネス探究プログラムや小諸探究での学びを進路指導に活かしていきたい。 |
| 3 地域社会との連携や協働による活動を通し、探究的な学びを推進する。 | 商業科 | A | 課題研究、デュアル実習、ビジネス探究プログラム等の各企業、学校との連携事業において、当初の計画通りに実施ができた。今後もより一層探究的な学びを推進するために、商業科目の授業内容・指導内容を見直し、探究的な学びへ転換していきたい。 |
| | 生徒会 | B | 積極的に地域と連携して行う活動に取り組むことができた。小諸市商工会、市役所、小諸高校生徒会と共に協力イベントに参加し貢献することができた。また、JRC部からの依頼で校外のボランティア活動への参加や役員以外の生徒への広報も行った。 |
| 4 学習活動や様々な行事等へのICTの積極的活用、および知見の共有を推進する。 | ICT | B | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、教員ともにICT活用スキルが向上している。 ・セキュリティ研修を行った。 ・今後は、生徒学習用端末の充電忘れなどの課題への対応、Edtechの活用などに取り組むたい。 |
| | 教務 | B | 進路指導係、学習指導委員会を中心に、「スタディサプリ」「ロイロノート」を導入し、さまざまな学習活動に活用することができた。リモートで学校説明会を開催するなど、各種行事でも有効活用できた。 |
| | 生徒会 | B | ICT機器の使用を積極的に取り入れた。リモートでのデメリットなど反省点はあるが、有効的に活用することができるようになっていく。 |
| 5 生徒一人ひとりの人権を尊重し、いじめ・体罰等のない、安心安全な学校をつくる。 | 1学年 | B | 価値観や感受性の異なる多様な生徒がいることをまずは認め、ルールを守る中での自由と放縦の線引きにより対応した。生徒間のトラブルはあるが、いじめの認知はされていない。生徒に対する体罰はあるはずがない。 |
| | 2学年 | B | コミュニケーションがうまくとれない生徒もおり、人間関係で行き違うことが見られた。相談等を受けた場合は、関係職員が連携し対応することができた。今後も個々の状況を踏まえ、丁寧な相談・指導を継続していく。 |
| | 3学年 | B | 生徒自身の意識を高めるために、機会あるごとに学年集会や学級で呼び掛けをおこなった。人間関係の行き違いなどに関して生徒からの相談があった場合には、担任を中心に関係職員と協力しながら対応できた。 |
| | 人権平和 | B | ・全校人権教育講演会をおこない、人権意識の啓発を図った。今後は、生徒相談係と連携した取り組みを考えていきたい。 |
| | 生徒相談 | B | 今後もいじめ悩みアンケートやアセスを実施し、活用する。 |